茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究　第 2 号（2019），13-27

中国人短期留学生の日本留学観に関する一考察

青木　香代子 *・安　龍洙 **
（2018 年 10 月 1 日 受理）

An Analytical Study on Perceptions of Short-Term International Students from China about Studying Abroad in Japan

Kayoko Aoki* and Yong Su An**
(Received October 1, 2018)

要旨

本稿では、X 大学に約半年間留学した中国人留学生の日本留学観について、PAC 分析（個人別態度構造分析法）を用いて調査、検討を行った。その結果、日本留学については、1）日本語能力の向上と達成感、2）日本留学が将来の進路や進学につながる、という特徴が見られた。調査の結果、日本社会や日本人に対するイメージについては、これまでの研究と同様、1）本音を言わない日本人、2）親切で優しい日本人、3）礼儀正しい日本人といったイメージを持ったことが分かった。また、留学先大学での 1）チューター制度、2）居住環境、3）留学生同士の交流、4）日本文化体験といった特徴が、留学観に影響していることが分かった。

【キーワード】中国人交換留学生、日本留学観、留学観の変化、PAC 分析

1. はじめに

本研究は日本社会における「外国人」と「日本人」の異文化相互理解の実態とその特徴について、個人別態度構造分析法（Analysis of Personal Attitude Construct：PAC 分析法）を用いて、認知的・情意的な観点から質的に検証し外国人と日本人の相互理解と相互交流の課題と問題点を検討する一連の研究の一部である。本稿では、滞日期間が 5 カ月以上 6 カ月未満の中国出身交換留学生 4 名を対象に、PAC 分析法を用いて日本留学観について調査、検討した。

中国人留学生の対日観に関する PAC 分析法を用いた研究として、滞日期間が比較的短い非正規

*茨城大学全学教育機構（〒 310-8512 水戸市文京 2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo Mito-shi 310-8512 Japan）
**茨城大学大学院教育学研究科（〒 310-8512 水戸市文京 2-1-1; Graduate School of Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo Mito-shi 310-8512 Japan）

留学生の対日観の研究（安 2010）、中国の内モンゴルおよび朝鮮族の少数民族出身者の対日観の研究（安 2012）、滞日期間が比較的長い中国人留学生の対日観の変容の研究（安 2013）等が挙げられる。これらの研究では「決められた規則を守る日本人」、「礼儀正しく親切な日本人」、「生活水準が高い日本社会」、「自分の気持ちをはっきり言わない日本人」等の対日観が被調査者の出身や滞在期間にかかわらず共通点として表れた。また、中国人留学生の異文化理解について PAC 分析法を用いて調査した松田・安（2018）の研究では、日本人や日本社会に対する理解は、日本人との付き合いが深いと思われる学生ほど、来日前に持っていたイメージが変容し、自国文化との違いを長所、短所という認識ではなく相対的に理解しようとする傾向がみられることが分かった。さらに、インドネシア人交換留学生を対象とした日本留学観に関する研究（安 2016）では、「規範意識の高い日本人像」や「本音を出さない日本人像」といった日本人像がみられたほか、留学生活については「一人暮らしの楽しさ」や「課題や宿題が大変である」等の特徴がみられた。しかし、この研究では被調査者の連想イメージの特徴として日本人、日本社会に対するイメージが多く、日本留学そのものに対するイメージが少ないことが分かった。そのため、本調査では、研究者が予め「日本での留学」「日本留学で学んだこと」「日本留学と将来の進路」のイメージ項目（刺激語）を設け、これらの項目を含めて PAC 分析を行った。

2. 研究方法

調査は第 1 部と第 2 部に分けられるが、第 1 部は被調査者本人の同意を得てフェイスシートに被調査者の属性を記入させてから、質問紙を用いて以下のように調査を実施した。まず、被調査者には前述の刺激語「①日本での留学、②日本留学で学んだこと、③日本留学と日本留学と将来の進路」を与え、これらを含めてイメージ項目が 10 項目以上になるように記入してもらい、次のような説明を行った。

> *「あなたは『日本留学』についてどのようなイメージを持っていますか。思い浮かんだ言葉やイメージを、思い浮かんだ順に番号をつけて記入してください。言葉でも短い文でも構いません。」*

その後、その連想イメージを重要と思われる順序に並べさせた。更にそれぞれのイメージ項目の組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いのかを 7 段階尺度で評定させた。この尺度での回答をもとに、ウォード法でクラスター分析し、その結果に対する対象者自身の解釈を求めた。最後に連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は（+）、マイナスイメージの場合は（-）、どちらともいえない場合は（0）の記号を記入させた。

第 2 部は口頭により、1）各クラスター及びクラスター全体の解釈、2）上記 1）の解釈についての来日前後の変化、3）各イメージ項目に対して、そのイメージを抱くようになったきっかけや媒体を尋ねた。

本稿で対象としたのは、2017 年～ 2018 年に日本の X 大学に交換留学生として滞在した中国出身の学生 4 名（A ～ D）である。調査は被調査者 A、B は 2018 年 1 月から 2 月に、被調査者 C、D は 2018 年 7 月から 8 月に第 2 著者が実施した。いずれの学生も 1 学期間（約半年間）日本に滞在した。本稿では被調査者が特定されないように地名、大学名、施設名、個人名にはアルファベットを用いた。誤用については、被調査者の解釈において内容の理解に問題があると思われるものに

ついて修正あるいは補足を加え、分析を行った。聞き手の発話を丸括弧、補足部分については角括弧を用いた。

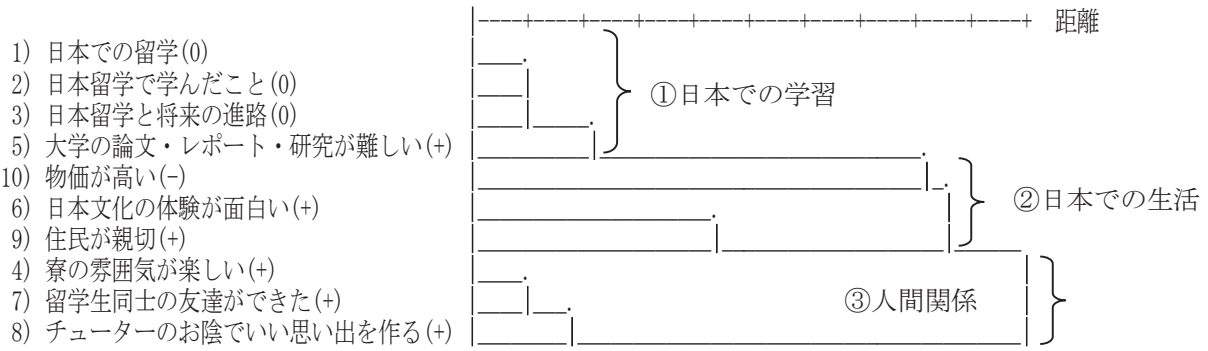
3. 結果

ここでは、まずクラスター分析の結果を示し、その結果に対する被調査者自身の解釈を述べてから、総合的な考察を行う。

3.1. 被調査者 A

図 1 は被調査者 A（以下、「A」とする）のデンドログラムである。このデンドログラムから 3 つのクラスターに分類して解釈した。

クラスター 1 は『1. 日本での留学（0)』『2. 日本留学で学んだこと（0)』『3. 日本留学と将来の進路（0)』『5. 大学の論文・レポート・研究が難しい（+)』の 4 項目でクラスター名は「日本での学習」とした。クラスター 1 は「主に日本に来て、日本の学習についてこのグループに分けます。例えば、論文、レポート、研究の書き方とか、それは全部日本に来て、そういうことを勉強しました。日本語で論文、レポート、研究を書くことは初めてなんです。来学期、中国の Z 大学（A の出身大学）では院生の推薦試験があります。そして、今回の目標は W 大学（中国の大学）の日本語学科。多分、日本に来て、先生の意見を聞いて、私も自分で翻訳の教科書を買って、どんどん翻訳という日本語の勉強が好きになりました。日本に来る前に夏休みに私は字幕のグループに入りました。日本のアニメの字幕。大学 4 年の日本語の勉強は、私は足りないと思っています。（略）学部の授業は多分範囲が広いですから、日本文化、日本経済。（略）一番印象的なのは日本語での論文の書き方ですよね。私は日本に来る前に論文を書くことがありました。でも、数字は多分 2,000 字ぐらい、その程度の小レポートみたいなことで。今回〔の留学〕でもアンケート調査も含めて、先生から〔もらった〕論文の書き方の資料で、多分、最初はこの論文の書き方をまねて、レポートの書き方が分かるようになりました。（来日前後の変化は？）昔は中国で日本語を勉強したとき、先生も中国人でクラスメートも中国人で、日本人と日本語を話す機会が少ないですね。日本人の先生も学校に 1 人だけですよね。そして、情報の収集することも、昔は私はずっと何か書く前にインターネットで情報を探して、でも、インターネットの情報は本当のことととうそは半分半分で判断が難しいですよね。そして、今回は私は図書館で資料を探して、論文集という大学の教授の論文集を



1) 左の数値は重要順位
2) 各項目の後ろ（　）内の符号は単独でのイメージ

図 1　A のデンドログラム

みて、本当に自分の論文を書くことに役に立ちました。」と解釈した。

クラスター 2 は『10. 物価が高い（-)』『6. 日本文化の体験が面白い（+)』『9. 住民が親切（+)』の 3 項目でクラスター名は「日本での生活」とした。クラスター 2 は「多分、日本に住んで 5 カ月ぐらいで日本の日常生活の全体的な雰囲気です。そして、この 10 番の物価が高いは多分、初めて日本に来たときのそれに関してのイメージです。（何を買った？）例えば、トイレ用の洗剤とか、キッチンの鍋とか、調味料も。日本文化の体験は最近の〔納豆工場の〕見学とか、茶道とかの体験。日本人は自分の文化に関して自信を持っていますね。そして、見学は私は納豆工場、おととい、行きました。日本人は自分の特徴、代表的なものを本当に大切にして、多分、この日本文化についてのものの存在をちゃんと守っていますね。何百年も。中国と比べて。中国は最近、経済の発展も早いし、中国文化の中に伝統的なことをちょっと失っています。中国の新年もお正月、昔は自分の家族と一緒にこの新年の行事とか〔祝ったけど〕、それは最近はどんどんみんな全部自分のスマホをみて、そういう感じがあります。日本文化は実は来る前に日本人は自分の文化を大切にするというイメージを持っていましたけど、（略）例えば、茶道は本当に詳しいですよね。やることとか。（略）9 番は寮の近くに住宅街が〔あって〕、学校から寮に戻ったとき、いつも住宅街のおばあさんとおじいさんがいて、（略）みんないつも親切であいさつをしています。多分、ニュースを聞いて、東京の人は大都市ですから、近所の人との関係は冷たいという印象を持っていました。P（滞在都市）の地元のところはみんな本当に親切だと思います。（物価について）特に以前は日本の物価が高いということを聞いたことありました。でも、日本の電気代とかガス代とかそういう料金の高さは以前は聞いたことなかったです。高いですね。」と解釈した。

クラスター 3 は『4. 寮の雰囲気が楽しい（+)』『7. 留学生同士の友達ができた（+)』『8. チューターのお陰でいい思い出を作る（+)』の 3 項目でクラスター名は「人間関係」とした。クラスター 3 は「実は日本に来る前の夏休みのとき、ずっとちょっと心配していました。日本に来てちゃんと友達ができますかって。来る前は学校で日本人の交流会みたいな活動がありました。そして、日本人との交流は結構楽しかったですけれども、でも、相手の本当の気持ちが分からなかったんです。日本人は多分知らない人と話しているとき、日本人の反応は全部一緒です。そういうイメージがありますね。（略）でも、日本に来て、みんな寮に住みます。そして、一緒に食事をするとか、外に遊ぶこととか、みんな一緒に生活をします。そして、どんどんみんなの好き嫌いとか、どんな気持ちを持っているとか、そういうことをもっと詳しく理解したら、本当にいい友達ができたという気持ちがあります。ここに来て最初の目標は、多分、日本人と話すと自分の日本語能力を伸ばすことですね。でも、ここに来て、私は初めて会った人は T〔留学生〕さん。（略）T さんは今年の 4 月から〔日本に来ているので〕、ここで分からないこととか、本当にいろいろなことを教えて〔もらって〕、例えば、生活料金の払うことはどうするか、そして、（略）炊飯器とか貸して〔もらって〕本当にいろいろ助けてもらった。そしてチューター[1)] のおかげですよね。〔中国での〕交流活動のとき、日本人と話すときはみんなめっちゃ真面目なことを話して〔いました〕。でも、〔X 大学の〕寮のチューターたちはみんな冗談を言って本当に面白いですね、みんな。来る前にチューターという存在を知りませんでした。クリスマスや節分のとき、チューターたちはイベントをして、例えば、クリスマスはチューターの H さんと L さんはみんなと一緒に横浜でクリスマスイブを過ごしました。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター 1 と 2 について「日本文化の体験もここに来て勉強したことです。生活と学習はこの日本に来てから最も重要なことです。来る前に生活とか学習と

かいろいろの目標を設置して〔来ました〕」、1と3について「1と3は人間関係、みんな留学生同士も私とチューターたちも同じ授業を選んで、多分、自分でこの授業を勉強するより効率的ですよね。日本語を考えるという授業で、私とチューター2人と一緒に勉強して、何か理解できないこととか聞いて、本当に勉強になりました」、2と3について「2と3の関係はもっと密接だと思います。人間関係、私は最初の2カ月はあんまり交流室[2)]に行ったことなかったんです。どんどんTたちは直接私の部屋に来て、みんな誘って、どんどんみんなとの関係が良くなった。」と解釈した。

全体のイメージのイメージについては、「今回の留学は本当に人生の中でも大切な経験です。そして、まずはこれは私の初めての1人暮らしで、自分の自立ということも、私はもう21歳ですから、初めての自立ということを考えます。私たちは交換留学生で、そして、交換留学生として最も重要なことは人との交流です。留学生もチューターたちも日本人の友達も。実は今の寮で中国人同士なのに一緒に座っても、〔学部の正規留学生は〕全然私たちと話さないです。何となく壁がありますね。例えば、何か話題を言いたいとき、でも、反応が全然来ないんです。その逆も。多分、他の人といい関係をつくるということが面倒くさいと思っていますね。私たち交換留学生は半年、1年ぐらいで帰るから多分必要がないと思っている人が少なくないですね。留学は全体的には良かったです。いい経験になりました。」と解釈した。

表1は、Aの日本留学のイメージとそれを持つようになったきっかけをまとめたものである。Aの留学観は、プラスのものが多く、刺激語の3つ以外では1項目（「物価が高い」）、残りはすべてプラスイメージとなっており、留学生活に対する満足度も高かったことが窺える。

3.2. 被調査者B

図2は被調査者B（以下、「B」とする）のデンドログラムである。このデンドログラムから3つのクラスタに分類して解釈した。

クラスター1は『1. 日本での留学（0）』『2. 日本留学で学んだこと（0）』『3. 日本留学と将来の進路（0）』『10. 日本は多文化社会（+）』の4項目でクラスター名は「留学を通して学んだこと」とした。クラスター1は「これは留学を通して学んだこととか、（略）このようなイメージを持っています。留学と聞くと、X大学の先生と学生たちがいろいろ教えてくれました。日本留学で学

表1　Aのイメージを持つようになったきっかけ

クラスター1：日本での学習	
1. 日本での留学（0）	―
2. 日本留学で学んだこと（0）	―
3. 日本留学と将来の進路（0）	―
5. 大学の論文・レポート・研究が難しい（+）	日本研究の授業で初めて日本語で論文を書いた
クラスター2：日本での生活	
10. 物価が高い（-）	買物や生活費が高い
6. 日本文化の体験が面白い（+）	体験授業で日本人の日本人に対するプライドが感じられる
9. 住民が親切（+）	町でおじいさん・おばあさんが親切に挨拶する
クラスター3：人間関係	
4. 寮の雰囲気が楽しい（+）	寮で皆で話したり遊んだりする
7. 留学生同士の友達ができた（+）	最初同期の留学生に誘われた
8. チューターのお陰でいい思い出を作る（+）	チューターはずっと助けてくれた

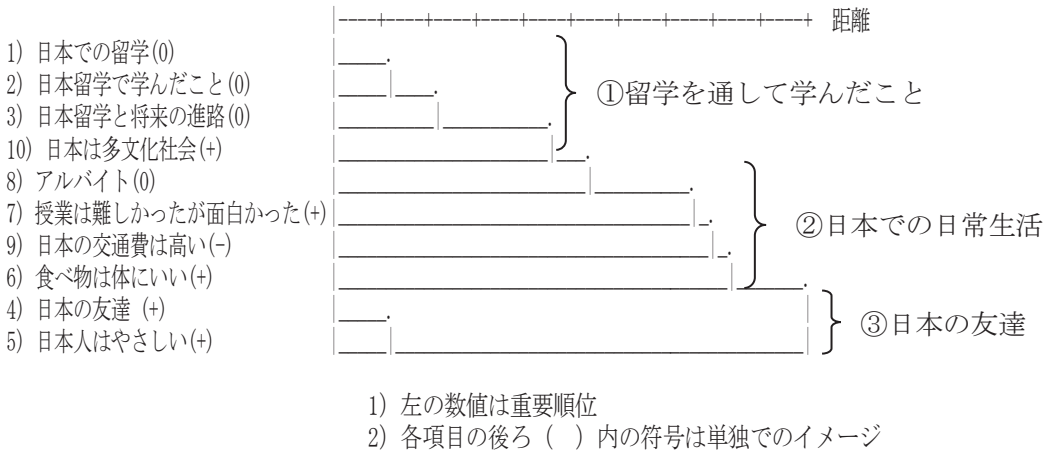


図２　Ｂのデンドログラム

んだことは中国と違って日本人というか、授業でいろいろな考え方とか〔を学んで〕、中国と全然違います。この点を学びました。例えば、国際関係の授業〔で〕、日本と中国の関係は日本側からの理解と〔中国側からの理解〕、この考え方が全然違います。（項目３について）日本に来る前に、将来は日本で就職とか日本で大学院に入って研究員とか、それとも、もし日本で留学の生活がそんなに楽しくないなら、中国に帰って公務員になるかとか〔考えていました〕。でも、今、留学生活もうすぐ終わって、日本の生活は楽しくていいなと思います。（略）例えば、北海道とか東京とかいろいろな日本の所も行きました。そこで、この旅行のときは観光客に対して日本人の態度とかいろいろな便利な設備を〔見ました〕。それで、大学の授業でも多文化社会に関する授業もすごく多いと思います。それは、日本が多文化共生を重視していると思っています。（来日前後の変化は？）さっき言ったとおりに、(略)日本に来る前には、クラスター１に関しては少しのイメージをしか持っていませんでしたけど、でも、日本に来てイメージが深くなりました。」と解釈した。

クラスター２は『8. アルバイト（0)』『7. 授業は難しかったが面白かった（+)』『9. 日本の交通費は高い（-)』『』6. 食べ物は体にいい（+)』の４項目でクラスター名は「日本での日常生活」とした。クラスター２は「これは日本での日常の生活です。ちょっと寂しいですけど、いいと思います。特に食べ物が体にいい。（他には？）交通費がすごく高いと思います。大学が自転車を貸してくれました。私、アルバイトの店は中華料理の店なんですけど、中華料理の店では全部日本のお客さんで、アルバイトのときは日本人のお客さんが〔何を〕食べるとか、〔何を〕しゃべっているとか、彼らの生活をみてました。お客さんが丁寧で、例えば、注文した〔とき〕とか『ありがとうございます』ってちゃんとあいさつする。（略）最初は、皆さん、先生とか学生とか話すスピードがすごく速くて理解が難しかった。（来日前後の変化は？）日本に来る前にはこの印象も持っていましたけど、ちょっと本当かどうか分かんない、信じられなかった。でも、本当に実際、自分が身を置いて本当に体にいいと思います。果物とか野菜とか肉とか、本当に味が中国と違います。（出身）大学でも日本に関して授業とか先生もいろいろ教えてくれました。だから、大体の印象を持っていました。」と解釈した。

クラスター３は『4. 日本の友達（+)』『5. 日本人はやさしい（+)』の２項目でクラスター名は「日本の友達」とした。クラスター３は「日本の友達、日本に来る前に日本の友達はいましたけど、でも、１回とか２回しか会ったことがない、そのような友達はそんなに深い友達ではなくて、普通の

友達だと思います。でも、日本に来て留学して、いろんな日本の学生とかと友達になって、留学する前と印象が変わりました。日本に来る前は日本人は友達になるのは難しいと思っていました。でも日本に来て、人はいろいろ、どんな人もいます。友達になるのは思ったより簡単。来る前は日本人は全部に厳しくてルールは守って、そういうイメージを持って、すごく堅いイメージだと思っていました。でも、本当に〔日本に〕来て、ルールを守らない人もいますけれども、すごく面白い人、笑いやすい人も結構います。もう一つの面白い点は、例えば、旅行するとき、中国の友達は、今日東京に行く〔となったら〕、何もプランとか全然なくて、楽しくてのんびりしてそのまま行きました。でも、日本の友達だったら、ちゃんと交通費とかどうやって行くか、バスの時間とか食べ物とか予約とか全部ちゃんと〔行く前に〕調べてちゃんと書いてくれました。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と3について「クラスター1を通して、クラスター3の友達とか、日本人が優しいというイメージができました」、クラスター2と3について「クラスター2は自分に関しての生活の内容で、クラスター3は自分だけではなくて周りの日本人とか友達をみればこういうイメージが持っています。」と解釈した。

全体のイメージのイメージについては、「大学の側もいろいろ準備というか、いろいろやってくれました。例えば、〔寮では〕チューターのような日本人の学生たち〔が住んでいます〕。そして、交流室もちゃんとあります。これは、〔日本の他の〕の大学と比べてX大学の制度、留学生に対しての制度は一番いいと思います。例えば、東京〔に留学している〕友達、この友達は1人ぼっち。（略）その友達はいつも授業とか遊びとか食べるときとかずっと1人。チューターもいなくて、活動とかイベントとか全然なかった。すごく厳しかった。彼は本当に2度と日本に行きたくない〔と言っている〕。」と解釈した。

表2は、Bの日本留学のイメージとそれを持つようになったきっかけをまとめたものである。Bの留学観も、Aと同様、プラスのものが多く、刺激語の3つのほかに「アルバイト」がマイナス・プラスのどちらでもない項目、「日本の交通費は高い」がマイナスのイメージとなっており、残りはすべてプラスイメージとなっていた。

表2　Bのイメージを持つようになったきっかけ

クラスター1：留学を通して学んだこと	
1. 日本での留学（0）	—
2. 日本留学で学んだこと（0）	—
3. 日本留学と将来の進路（0）	—
10. 日本は多文化社会（+）	アルバイトであった人と多文化に関する授業で
クラスター2：日本での日常生活	
8. アルバイト（0）	自分がやってみて
7. 授業は難しかったが面白かった（+）	実際に授業を受けてみて
9. 日本の交通費は高い（-）	旅行の時に交通費で困ったから
6. 食べ物は体にいい（+）	買った野菜と果物が美味しいから
クラスター3：日本の友達	
4. 日本の友達（+）	実際に日本人と友達になった
5. 日本人はやさしい（+）	旅行や生活で会った日本人は優しい

3.3. 被調査者 C

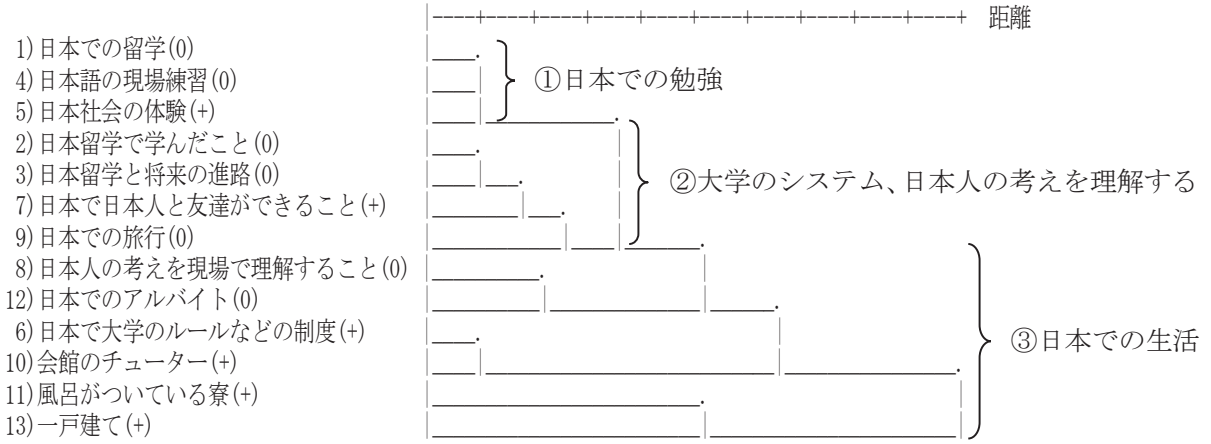
図 3 は被調査者 C（以下、「C」とする）のデンドログラムである。このデンドログラムから 3 つのクラスターに分類して解釈した。

クラスター 1 は『1. 日本での留学（0)』『4. 日本語の現場練習（0)』『5. 日本社会の体験（+)』の 3 項目でクラスター名は「日本での勉強」とした。クラスター 1 は「日本での勉強することです。私は日本語能力を伸ばすために現場で勉強しなくてはいけないと思います。もし、ただ、中国で勉強すれば、何年間勉強しても多分コミュニケーションの能力は上達できないと思います。（来日前後の変化は？）中国にいた時も同じ考えを持っていました。よく先輩たちと交流したおかげで、私は大学 2 年生のときからよく準備して留学をしました。」と解釈した。

クラスター 2 は『2. 日本留学で学んだこと（0)』『3. 日本留学と将来の進路（0)』『7. 日本で日本人と友達ができること（+)』『9. 日本での旅行（0)』の 4 項目でクラスター名は「大学のシステム、日本人の考えを理解する」とした。クラスター 2 は「クラスター 2 は X 大学のシステムや仕組みのことです。例えば、寮のチューター制度とか、そして、日本人の考えることを理解することとか、これは日本に来ないと多分分かりません。（来日前後の変化は？）これは来る前に分からなかったです。」と解釈した。

クラスター 3 は『8. 日本人の考えを現場で理解すること（0)』『12. 日本でのアルバイト（0)』『6. 日本で大学のルールなどの制度（+)』『10. 寮のチューター（+)』『11. 風呂がついている寮（+)』『13. 一戸建て（+)』の 6 項目でクラスター名は「日本での生活」とした。クラスター 3 は「クラスター 3 は日本での生活です。日本で寮に住んでいて、お風呂が付いています。そして 1 戸建てはホームステイのときに体験したことがあります。（どんな感想？）結構感動しました。（寮には満足？）はい。中国の寮は多分、今の寮と同じ広さで、6 人が一緒に住んでいて結構狭いです。（X 大学の寮は 1 人で住めるから便利？）はい。そして、中国では共同トイレとか 1 階の全員が一緒に使うので、朝の時間は人が混んでいて不便ですね。（来日前後の変化は？）来る前に先輩たちと交流して、日本の寮はそんなに素晴らしいなって思って、そして、これは日本に行きたい理由の一つでもあったと思います。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター 1 と 2 について「クラスター 1 とクラスター 2



1) 左の数値は重要順位
2) 各項目の後ろ（　）内の符号は単独でのイメージ

図 3　C のデンドログラム

表3　Cのイメージを持つようになったきっかけ

クラスター1：日本での勉強	
1. 日本での留学（0）	―
4. 日本語の現場練習（0）	寮のラウンジや部活で
5. 日本社会の体験（+）	日本での生活
クラスター2：大学のシステム、日本人の考えを理解する	
2. 日本留学で学んだこと（0）	―
3. 日本留学と将来の進路（0）	―
7. 日本で日本人と友達ができること（+）	X大は外国人に優しい（他の大学と比較して）
9. 日本での旅行（0）	想像と同じ
クラスター3：日本での生活	
8. 日本人の考えを現場で理解すること（0）	いい点と良くない点がある
12. 日本でのアルバイト（0）	体験していないけど、アルバイト先の人が冷たいと聞いた
6. 日本で大学のルールなどの制度（+）	留学生に優しい（無料の活動とか）
10. 寮のチューター（+）	いろんなことを手伝ってくれる
11. 風呂がついている寮（+）	初めて体験した
13. 一戸建て（+）	ホームステイの時に体験した

は多分これは日本の現場で体験することです。主にクラスター1は一番重要で、クラスター2のシステムをよく活用して、日本語能力は上達します」、クラスター1と3について「クラスター1とクラスター3は、クラスター1は日本語の練習だけではなくて、日本社会の体験もあります。クラスター3はホームステイでよくホームステイのファミリーを交流していろんなことが勉強になりました。教科書と書いてたものが結構違うことがありました」、と解釈した。

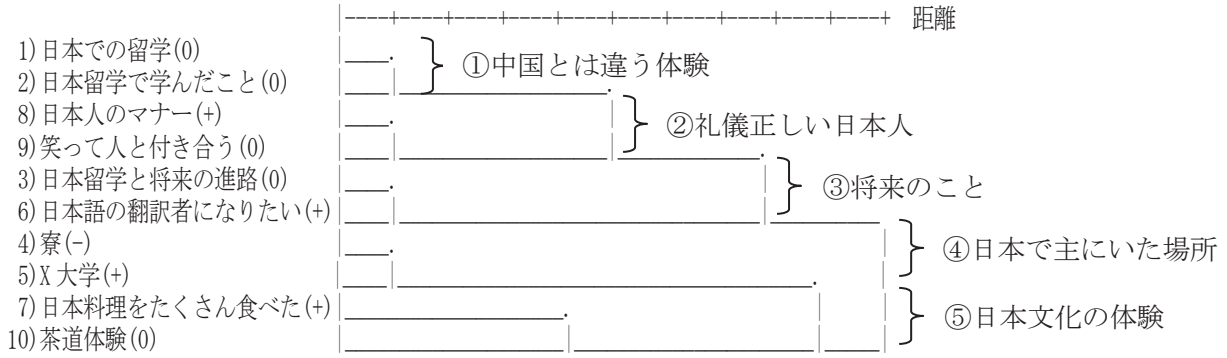
全体のイメージのイメージについては、「正直いって、日本人はいい点があるけど、悪い点もあります。例えば、チームワークをするとき、日本人、多分、半分以上が黙ってて、自分の意見は出さないで、そして、最後に本気でやる気が出てきます。それは、最初はどうなんだろう〔と思った〕。日本に来てこのような人間関係がよく分かりました。来る前に多分、そんなひどいわけではないね〔と思っていた〕。でも、本当にそんなにひどかったです。（留学してよかった？）実際、G大学（出身大学）は結構小さい大学で社交的な活動があまりないですね。ですので、G大学にいるときは、多分、ただ、食堂、寮、教室、そしてジムで、毎日同じような生活をして。でも、X大に来て、多分、毎週1回、あるいは2回の活動があって、本当に大学のような感じです。そして、いろいろX大学は大学では〔国際交流の〕センターがあって、寮にラウンジがあって、みんなとコミュニケーションの機会があって、その点は良かったと思います。」と解釈した。

表3は、Cの日本留学のイメージとそれを持つようになったきっかけをまとめたものである。Cの留学観は、「どちらでもない」が刺激語以外では4項目、プラスのイメージが6項目となっており、留学生活や留学観は肯定的に捉えていることがわかった。

3.4. 被調査者D

図4は被調査者D（以下、「D」とする）のデンドログラムである。このデンドログラムから5つのクラスターに分類して解釈した。

クラスター1は『1. 日本での留学（0）』『2. 日本留学で学んだこと（0）』の2項目でクラスター



1）左の数値は重要順位
2）各項目の後ろ（　）内の符号は単独でのイメージ

図４　Ｄのデンドログラム

名は「中国とは違う体験」とした。クラスター１は「中国とは全然違う体験です。例えば、中国では大学に中間試験がないです。期末試験しかないです。英語の授業なら中間試験がありますけど、他の授業は中間試験がないです。そして、中国の大学生は全員、学校の寮に住んでいます。日本は〔大学の〕外で自分で部屋を探します。そして、中国の大学生はほとんどがバイトしないです。でも、日本の大学生はバイトしないのはかえって少数派ですね。（他には？）学んだことは日本語が上手になった。（来日前後の変化は？）ないです。特に、中国の学生にとって、〔大事なことの〕ランキングは第１位には必ず学習ですが、日本の学生は部活は大事ですね。日本の学生は何だか部活はすごく重視しています。日本の学生はこのランキングは第１は部活、第２はバイト、第３には学習、そうだと思います。」と解釈した。

クラスター２は『8. 日本人のマナー（+)』『9. 笑って人と付き合う（0)』の２項目でクラスター名は「礼儀正しい日本人」とした。クラスター２は「日本人、礼儀正しいです。例えば、コンビニに行って店員が必ず敬語を使って、そして、お客さんが出るとき必ず頭を下げてお辞儀する。これは中国では多分ないと思います。（マナーがいい？）はい。そして、みんなは知らない人でもずっと優しい表情で。そういうことを（中国にいた時に）聞いたことがあるけど、本当に体験したことはないです。」と解釈した。

クラスター３は『3. 日本留学と将来の進路 (0)』『6. 日本語の翻訳者になりたい (+)』の２項目でクラスター名は「将来のこと」とした。クラスター３は「将来のことに関わっています。私は日本語を勉強したから将来は日本語と関係がある仕事をしたいんです。そんなに強い関係がなくても日本語を使える仕事、日本語、自分のこの能力を生かすという仕事をしたいと思います。（仕事はたくさんある？）たくさんといえないけど、今は日本と中国の貿易とかいろいろの面で交流がありますから、こういうニーズがあります。（来日前後の変化は？）今は中国の大学の日本語翻訳科、大学院に入る試験を準備していますから変化はない。」と解釈した。

クラスター４は『4. 寮（-)』『5. X 大学（+)』の２項目でクラスター名は「日本で主にいた場所」とした。クラスター４は「クラスター４は日本に留学したとき、主に行っている場所です。寮は家のような感じです。X 大学は勉強する場所です。多分、あとは、中国に戻っても日本のこの半年の留学を思うと、すぐこの二つの所を思い出すかもしれない。（来日前後の変化は？）来る前は、以前はそんないろいろな国から来た人と交流とか一緒に暮らしてる経験がないですが、すごく面白いと思います。〔日本人以外の人とも〕異文化のコミュニケーションをして。」と解釈した。

クラスター5は『7. 日本料理をたくさん食べた（+)』『10. 茶道体験（0)』の2項目でクラスター名は「日本文化の体験」とした。クラスター5は「日本文化の体験です。日本料理〔について〕は、中国では日本料理もあるけど、天丼というものがないです。天ぷらがあるけど、天丼がないです。そして、本物の日本料理は中国の日本料理と微妙な違いがあります。味が違います。茶道体験、これは全く新しい体験です。日本の茶道は今の中国とは違います。日本人の礼儀も表していますよね。日本人の人と接する考えとか気持ちとか。（来日前後の変化は？）来る前はちょっと緊張していました。〔日本に来たら〕周りの人はみんな優しいから。そして、最初は自分の日本語は日本人に聞き取れられるかとちょっと心配でした。そして、自分が日本人の日本語を聞き取れるかとちょっとドキドキしていました。でも、確か、最初は店員の日本語はすごく速いので、ちょっと聞き取れなかったけど、今は聞き取れるようになった。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2について「日本への留学で、日本に来ると日本人のマナーを勉強するになります」、クラスター1と3について「日本語学部の学生で日本に行ったことがなかったらちょっと変ですよね。そして、日本語を勉強しているから、日本語学部の学生として自分の将来を考えているということです」、クラスター1と4について「1と思うと必ず4を思い出す。日本に留学するときはずっとこの2つの場所に行っている。主にこの2つの場所にいたからいろいろな思い出が残ある」、クラスター1と5について「日本への留学で日本に来たら、日本の文化とか料理の文化、茶道や必ず体験したい」、クラスター2と3について「もし日本語の通訳になりたいなら、日本人と接する場合もあります。だから、そのときは日本人のマナーを身に付けていたら有用だと思います」、クラスター2と4について「寮やX大学でいろいろな日本人と接した。だんだん日本人のマナーや彼らの日常生活を見て、彼らはずっと笑顔で人と付き合うということを知るようになる」と解釈した。

全体のイメージのイメージについては、「多分、民族の性格が違うというところです。日本人はいつも本音と建前がありますよね。本音を言うことは少ないと思います。時々、本当に腹が立っても、そのときでも笑顔で人と話すとか。でも、そう考えると、ちょっと怖いと思います。だって、この人の本当の気持ちが分からなかったら、自分がどんな行動を取ったらいいか分からないと思います。中国の人は割とそんなに自分を隠す傾向がないと思います。（他には？）日本の自然環境がすごくいいと思います。特に日本のごみの処理。日本は道でごみ箱が少ないですよね。でも、ごみがあんまり落ちてない。1人暮らしで寂しいと思います。中国の寮は1人ではなくて、4人とか6人とか･･･。8人の寮もあります。でも、もし仲が良かったら本当に楽しいです。中国にいたとき、時々ルームメイトが面倒くさいと思ったけど、本当に1人になると、かえって、こういう人たちに会いたいと。〔X大学の〕寮の日本人たちはすごく、彼らはいろいろな外国人と接した経験があるから、そんなにステレオタイプがないと思います。でも、他の日本人も、道を聞くときとか、何か聞くときとか、すごく親切に案内してくれます。」と解釈した。

表4は、Dの日本留学のイメージとそれを持つようになったきっかけをまとめたものである。Dの留学観は、クラスター4の「寮」がマイナスイメージの他は、刺激語以外では「どちらでもない」が2項目、プラスイメージが4項目であった。「寮」がマイナスイメージになっているきっかけとして、「寮の人の付き合い」となっているが、インタビューでは「一人暮らしで寂しい」と述べられていたほかは、寮の人との付き合いにおいて特に悪い経験は語られなかった。

表 4　D のイメージを持つようになったきっかけ

クラスター 1：中国とは違う体験	
1. 日本での留学（0）	―
2. 日本留学で学んだこと（0）	―
クラスター 2：礼儀正しい日本人	
8. 日本人のマナー（+）	人のつきあい、コンビニ
9. 笑って人と付き合う（0）	人との付き合い、日本人と一緒に受けた授業
クラスター 3：将来のこと	
3. 日本留学と将来の進路（0）	―
6. 日本語の翻訳者になりたい（+）	日本語翻訳の大学院の準備をしている
クラスター 4：日本で主にいた場所	
4. 寮（-）	寮の人との付き合い
5. X 大学（+）	大学の授業・環境
クラスター 5：日本文化の体験	
7. 日本料理をたくさん食べた（+）	天丼、ラーメン
10. 茶道体験（0）	茶道のマナー、正座は痛い

4. 考察

第 3 章では中国人留学生 4 名の日本留学観についてみてきた。ここでは、4 名の学生の PAC 分析とインタビューから、(1) 日本留学の特徴、(2) 日本社会や日本人に対するイメージの特徴、(3) 留学先大学にける留学観の特徴の 3 点について考察を行う。

4.1. 日本留学の特徴

(1) 日本語能力の向上と達成感

日本への留学は、「ここにきて最初の目標は、（中略）日本人と話すことと自分の日本語能力を伸ばすこと」、「一番印象的なのは日本語での論文の書き方」（A）、日本に来たのは「日本語能力を伸ばすため」（C）、日本に来て「日本語が上手になった」（D）など、日本留学の大きな目的の一つが日本語能力の向上であることが分かった。また、日本人の考え方や、国際関係における日本側からの理解（B）といった、それまでとは異なる視点を学んだということが述べられていた。そして、最初は店の店員や学生が話すスピードが速くて聞き取れないこともあったが、聞けるようになったり、レポートを書けるようになったりするとの述べていることから、日本語能力向上に対する達成感を感じているようだ。このように、中国人短期留学生は交換留学を通して日本語能力向上という明確な目標を持っており、その達成感を感じている様子が窺える。

(2) 留学と将来の進路

日本留学と将来の進路については、大学院でも日本語を専攻したいと考えている A は X 大学の図書館で論文集を読んで、論文を書くための参考にしたことや、授業でも論文の書き方を習ったことが述べられていた。また、D は大学院に進学して日本語翻訳を専攻し、日本語と関係がある仕事がしたいと述べていることから日本留学を通して学んだことが将来の進路とつながると考えているようである。B は日本での就職や、日本の大学院で研究員になることを考えていたことから、留学と将来の進路が結びついていることが分かった。このように、中国人短期留学生は日本における交換留学が彼らの将来の進路や進学のための一つのステップになっているようである。

4.2. 日本社会や日本人に対するイメージの特徴

(1) 本音を言わない日本人

日本人に対する評価について、C のグループワークで日本人学生が「半分以上が黙ってて、自分の意見は出さない」という解釈や、D の解釈にみられた「日本人はいつも本音と建前がありますよね。本音を言うことは少ないと思います。（中略）ちょっと怖いと思います」は、最初のイメージ項目には上がらなかったが、インタビューからは、本音を言わない日本人に対してマイナスのイメージを有していることが分かった。これらはこれまでの研究（安 2010; 2012; 2013、松田・安 2018）でもみられたことである。一方で B は、留学前は「日本人と友達になるのは難しいと思って」いたが、日本に来ると「どんな人もいます。友達になるのは思ったより簡単」と述べていることから、日本人との交流に対するイメージが変わっている様子が窺える。また B は、中国人の友人と日本人の友人を比較し、旅行の例を出して中国人の友人とは計画を立てずにのんびり旅行に行ったが、日本人の友人はバスの時間や食事の予約などを前もって調べて準備してくれたエピソードを紹介している。これは、松田・安（2018）のケースでもみられたように、日本留学を通して、日本人との付き合いが深まり、距離が近くなることによって、プラス・マイナスのイメージ評価にとどまらず、双方の違いを客観的に捉え、異文化の相違を相対的に理解しようとする姿勢へと変化したケースであると考えられる。このように、中国人留学生は、本音を言わない日本人に対してステレオタイプ化された表面的な理解から脱し、独自の異文化観を構築しようとする姿勢が窺え、交換留学が前述の日本語能力向上のみならず異文化理解を深めるきっかけとなっているようである。

(2) 親切で優しい日本人

日本人に対するイメージとして、親切で優しいというイメージはこれまでの先行研究同様、今回の調査でも共通してみられた。A は、寮の近くの住宅街の住民が「いつも親切であいさつをして」いると述べており、B は「日本人はやさしい」というイメージ項目があった。

(3) 礼儀正しい日本人

B は、アルバイト先で日本人の客が丁寧にあいさつをしていたと語っていたが、D もまた、「日本人のマナー」のイメージ項目において、「日本人、礼儀正しいです。例えば、コンビニに行って店員が必ず敬語を使って、（中略）必ず頭を下げてお辞儀する」と述べていることから、礼儀正しい日本人のイメージが日本に来て強化されたことが分かった。上記二つの項目は、これまでの研究（安 2012,　2013）でもみられた。

4.3. 留学先大学における留学観の特徴

(1) チューター制度

X 大学の留学生に対する支援の特色として、チューター制度がある。X 大学では、チューターは日本人である場合が多いが、交換留学生として約半年間という短い期間滞在する彼らにとって、日本人チューターの存在が影響していることが、A のイメージ項目「チューターのおかげでいい思い出を作る」や C の「寮のチューター」が「いろいろなことを手伝ってくれる」という記述からも読み取れる。また、B も他の大学と比較し、チューター制度や交流室の設置など、X 大学の「留学生に対しての制度は一番いいと思います」とし、X 大学のチューター制度を高く評価していたこと

が分かった。このように、チューターの存在が交換留学生の日本留学に大きな影響を与えており、国際交流室のように日本人学生と留学生が交流できる環境も彼らの日本留学において大きな意味を持つものと考えられる。

(2) 居住環境

寮に対する評価は、中国の大学と比較して C の「風呂がついている寮」、A の「寮の雰囲気が楽しい」や「初めての一人暮らしで、（中略）初めての自立ということを考えます」といったプラスイメージの評価と、D の「一人暮らしで寂しい」のマイナスイメージに分かれた。D は、「時々ルームメイトが面倒くさいと思ったけど、本当に一人になると、かえって、こういう人たちに会いたい」と思うようになったと述べていた。先行研究のインドネシア人交換留学生（安 2016））の日本留学観では一人暮らしに対するマイナスイメージはみられなかったが、今回の中国人の調査ではその評価が分かれており、単身寮に対する評価に個人差がみられることが分かった。

(3) 留学生同士の交流

A のイメージ項目とインタビューでは、中国以外の国からの留学生との交流に対してプラスイメージを持っている一方で、X 大学に正規留学生として在籍している中国人留学生に対しては、「中国人同士なのに一緒に座っても、（中略）全然私たちと話さないです。何となく壁がありますね」と述べていたことから、同じ中国人同士でも交換留学生と正規留学生の間に壁が存在する様子が窺える。

(4) 日本での文化体験

A「日本文化の体験が面白い」（イメージ項目）、C「ホームステイで（中略）交流をしていろんなことが勉強になりました」等から、X 大学で行っている茶道体験やホームステイが中国人交換留学生の日本文化の理解に役立っているものと推測される。

5. まとめと今後の課題

本稿では、X 大学に約半年間交換留学生として滞在した中国人留学生 4 名への PAC 分析から、日本留学観について分析した。その結果、先行研究同様、「本音を言わない日本人」「親切で優しい日本人」「礼儀正しい日本人」といった日本人像が示された。また、被調査者 4 名は、日本留学と、将来の進路を結び付けて考えており、日本留学を通して日本語能力を向上させたり、日本人の考えを学んだり、日本側に立った異文化理解を模索したりと、学業的な目的達成のみならず、それを将来につなげようとする積極的な姿勢がみられた。

もう一つの特徴として、X 大学の留学生に対するサポートの特徴であるチューター制度や寮、日本文化体験学習に関するイメージ項目が挙げられる。特に、約 6 カ月という短期滞在をする学生にとって、チューターとの交流及び交流の場や、茶道体験、ホームステイなどの日本文化体験のイベントが日本社会や日本文化の理解に少なからず影響していると考えられる。その一方で、同じ中国出身の留学生でも、正規留学生との間に「壁」があると感じたという解釈がみられたことから、身分の違いが留学生活や留学生同士の人間関係に影響する可能性が示唆された。今後、留学生の身分や留学期間などの違いが彼らの人間関係の構築に及ぼす影響についても分析する必要があると考えられる。これを今後の課題にしたい。

付記

本論文は、日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究 C（課題番号 : 17K02838，研究代表者 : 安龍洙）の助成によるものである。

注

1）X 大学には、留学生を対象としたチューター制度がいくつかあり、そのうちの一つでは、日本人学生が留学生向けの寮に住み、留学生の生活面や勉学面のサポートを行う。

2）X 大学内に設置している留学生と留学生をサポートするチューターが集まる交流室。

引用文献

安龍洙（2010）「外国人の対日観に関する研究－中国人非正規留学生の場合」『茨城大学留学生センター紀要』8, 1-17.

安龍洙（2012）「外国人の対日観する研究－中国の少数民族出身者の場合」『茨城大学留学生センター紀要』10, 1-14.

安龍洙（2013）「外国人の対日観する研究－中国人留学生の来日前後の対日観を比較して」『茨城大学留学生センター紀要』11, 1-15.

安龍洙（2016）「インドネシア人交換留学生の日本留学に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』14, 1-18.

松田勇一・安龍洙（2018）「日本社会における中国人交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究』1, 69-83.